



幼児の遊びを如何に整理するか

東京女高師 三 浦 ひ ろ

私達が未だ小學校に入學しなかつた程以前の幼児時代にかへつて見ますと、私達の其の頃の一日が食べる事と、寝る事と、そして遊ぶ事とてつきて居たやうに思はれます。勿論考へ様によつては成年期に達した人達でもこの三つの事から一日の生活が成り立つてゐると言へない事はありますまいが、極平易な考へ方にしますと、幼児期にある子供達にとつては此の遊ぶと云ふことが生活の著しい特長となつて居ると思ひます。従つて遊びを以つて幼児の生活を代表する事も出来るかと

思ひます。

かう考へて來ますと、この時代に於いては如何によく遊ぶかといふ事が彼等の生活を價值づける大切な要素となるのでありませう。そしてこの遊びが如何に整理されるかと云ふ問題は、彼等の將來にかゝはる一大事となるのでありまして、その點から將來の貴い生活に對する偉大な潜勢力を生ずるのであります。

しかし乍ら彼等幼児には自らの力を以つて彼等の遊びを處理する事は不可能なのでありまして勢

そこには他の力を加へなければならぬ必要が生ずるのであります。所謂幼稚園の保育は即ちこの幼児期の遊びを最も理想的に整理しやうとする好意と努力によつて行はれて居る人間教育の一部と考へたいのであります。

ことに我が日本の幼稚園の教育は未だ幼児の全生活につき入つて、彼等が如何に喰ふか如何に寝るかと云ふ點にまでふれる事は出来ないもので幼児の保育は遊びを導くといふ一點に集つて來なければならぬのであります。

遊びの整理はこれを大體二方面から考へる事が最も簡單であらうかと思ひます。即ち身體的方面と精神的方面の夫れであります。しかしかう申しましても心身を二元的に見てゐるのではありませぬ。只便宜上この兩面から考察をしたいのであります。ですから決して何れを偏重するといふ事はない筈でありますが、しかし子供はよく吾々が「一

時もちつとしてはゐない」と叱る事のある程に靜止してゐる時は少く常に活動してゐるもので彼等にとつてはその一舉手一投足が貴い生活なのでありますから幼児期の教育はこの方面を特に高潮してこの方から精神生活に及ぼすやうにするのが可なり大切な事ではあるまいかと考へられます。

遊びの身體的整理に於ける主眼點を私は二つに分けました。即ち一は身體の發育助長に資するやうにアレンジして行く事で、他の一つはその身體運動を通して子供の劇的本能を陶冶し、精神訓育の各方面に資せんとする點であります。さてこの二つの目的を達する爲に先づ私達の老へねばならぬ事は、その材料でありますがこの材料選擇といふ事が非常に困難な事であります。しかし大體に於いては幼児時代に於ける筋肉骨格の完全な發達生育をはかり、身體各機能の健全な活動を促し同時に精神訓練上の効果をして完全ならしめ、身體

を彼等の魂の立派な殿堂として築き上げるに足る材料を選ばよいためでありませう。それには勿論科學的の知識の上に立つて或は幼兒の心理に、生理に、解剖に、正しい見解を以つてアレンジされなければならぬ事になります。しかし夫れかといつて小學校に行はれて居る如き體操のやうな材料が選擇せられるやうな事がありましたら、私は大變にかなしい事だと考へなければならぬと思ひます。勿論體操のやうなものが非科學的だと申すのではありませんし不合理だといふのもありません。現在に於いては最も科學的なものゝ中に數へられるべきものであらうかと考へます。只餘りに理智的に整理せられ過ぎて居ります爲に賛成出来ないであります。相當彼等の理智が發達して、結果の爲に過程を喜ぶ事が出来るやうになつた時にはいゝのですが、幼兒期に於ける子供達には彼等の心理的方面から考へて不適當だ

と思ふのであります。ですから理智的に完全に整理せられるといふ事は行ふべくして行ひ難い事だと思ひます。たゞ彼等幼兒の日常生活から最も體育的なものを選び又は彼等の遊び中非體育的な部分を訂正してゆく方がよいのだと思ひます。つまり幼兒の日常生活の中に含まれてゐる出來事をとつてこれを身體的效果をもたらず道へと整理してゆきさへすればいゝのであります。

しかもこれに或リズムを加へて一つのリズム運動として行ひ得る材料でなければならぬのであります。私はすべての體育運動にもつとくリズムを重要視してほしいと叫びたいのであります。ことに幼兒の運動には之を高潮したのであります。何となれば運動に一定のリズムを與へるといふ事は最も自然な事だからであります。そして最も自然なるが故に其の適當なリズムの中に行はれた場合には最も能率が高められ、且つ快い運

動の連鎖として何等の不自然もなく終始する事が出来るのであります。それはリズムといふものは宇宙萬物に存在するところの一つの現象であつて宇宙の平和はこのリズムが正しく行はれた場合に見られるのでありまして、人間も亦この宇宙の一現象たる以上一のリズム體でなければならぬ筈であります。ですから吾々の運動をリズムミカルに行ふといふ事は最も自然な事であつて且つ重大な事なのであります。私共がしばしば耳にする事なのであります。あの鍛冶屋の店先から聞える威勢のいゝトントンカン／＼といふ響は實に正しく反覆せられてゐるリズムなのであります。其の他木樵の鋸の音に、石屋ののみの刻みに一定のリズムを知る事が出来るのでありまして、鍛冶や、石工木樵は彼等のこのリズム運動に於いてその仕事の能率を高め、一日の疲勞を半減又は三分の二減してゐるかも知れないのであります。

こんなわけで私は幼児の運動が氣持のよいリズムミカルな運動として終始出来るやうにしたいのであります。尤もこのリズムを如何に發表し訓練するかといふ點については更に深くリズムといふ事について心身の關係を考究しなければならぬのであります。そのいはゆる方法論については、更に述べることにして、とにかくこゝでは、幼児の遊びを最も自然であるやうにする爲にはリズムを伴はせたいのであります。このリズムを伴はせる爲に最も手近な方法は樂器を以つてひき起されるあるリズムを伴はせるといふ事でありませぬ。即ち子供達の運動に際して、その運動が一定のリズムにまとめられ且つ次第に高潮に達するやうに樂器をもつて伴奏させるのであります。

さて私は以上述べたやうに材料選擇の要件として材料は子供達の生活に極めて親密なものから選ぶやうに、かつ一定の秩序と目的を有したもので

あるやうに、と列擧しましたがそれを更に一二の具體的な例にあてはめて考へてみたいと思ひます。

私はこゝに *The Elephants go down the Street* といふ材料を採りませう。直譯すれば町をゆく象とても申ませうか、曲は四小節から成る極めて短いものであります。動作は只四這になつて地面を或は床上を、芝生をドッシリ／＼歩くだけの事です、何等ことさらの技巧を要求はいたしません。たゞ出来れば子供が自然にうけ入れた象の感じが如實に發表せられてゐればよろしいのです。しかしかういふ例は、象の歩くのを見た事のある子供は極めて少からうと思ひますから、我々の實際に對しては或は非常に不適當な例證かと思ひますが今私のいひ度い事を云ふ爲には至つて都合のよい例なのであります。

それは五月のサトンの出来事でした。イギリ

スの五月と言へば誠に氣持のよい若葉と花のシーズンです。其の五月の午後、柔い日ざしが若葉のかげを地に落してゐる頃、サトンの町の街道を見世物やの親方がつれの男二人と共に、大きい象を二匹つれて來ました。ドシン／＼と地響をさせてアスファルトの道路をゆく音に驚いて窓を開けるとこの有様をみたのです。つひ好奇心にかられて外に出ました。何ともいはれない光景でした。兩側に美しいコロニエの並木をもつた青葉の道を灰色の象が體に似あはぬ小さいかはいゝ眼をまぶしさうにして歩いてゆくてはありませんか。見物の子供達だけでなくて大人の私達もつひ何かしら妙な心持になつて微笑を禁じ得ませんでした。とやがて象の一行は私達觀衆に一種のものなつかしい印象を残して遠くへ消えて行きました。そのあと人々が各々今の光景について語り興じながらかへりかけた頃前をゆく子供の群の中の一人が突然

歩道に四這ひになりました。すると他の一人もそれにつゞきました。又つゞいて子供が三人、六つ七つの子供だつたでせうか、かぼそいあどけない手足を如何にも象の足を思はせるやうに重々しく扱つて、のつそり／＼興に乗つて歩き始めました。この様子が私達の心を捕へてしまつた事はいふ迄もありません。皆のものは子供は實に偉大なアーティストだと思はなかつた筈はないと思ひます。それから一年たつた或時私は小さい子供にさせる遊戯としてこの町をゆく象と題する材料を見出したのです。割合にどつしりと重い曲を聞いた時に、私にはサトンの町の思ひ出がよみがへつて来て、何といふよい所を捕へた材料だらうと思ひました。

誰がこの見事に自然を捕へたゲームを指して單純だといへるでせう。誰が藝術味に乏しいといへるでせう。しかも極めてリズムミカルであり、相當

な運動量を表してゐる點に於いて異議をさしはさむ餘地はありませんまい。

これに似た材料を私はよく見ました。家鴨、ポートレース、シーソー、風にふかれる柳、などと言つたやうに子供の日常生活に表はれる事象其のまゝを取つてしかも如實に表したものを。しかし我が國で私はかういつた材料に不幸にして餘り度々は接しないやうです。

私が所謂子供の遊戯といふものを見て少くとも次の事を考へさせられるのです。

一、歌詞を逐字的に動作に翻譯した點、そうして之から少くとも二つの不自然を生み出してゐます。一つは詩歌といふものはどんなにしても一言一句動作になほすといふ事は出来ないのです。が、それを仕遂げたといふ所に無理を生じてゐます。

今一つは振付け者はいづれも成人で、幼兒時代

と相距ること甚だ遠い人達もあります。その幼児時代の消えかけた淡い追憶を辿つての仕事になつたものですから如何にも子供らしい技巧はありますが子供の自然からは遙かに遠ざかつてしまつてゐるのです。事實私達が子供にならねばならぬと氣づいた時は子供からはなれてしまつた時なのですから。

二、偽リズム運動の危険であります。

リズムといふものゝ説明が極めて容易ならざる事で、従つて眞のリズムと偽リズムとは常に混同しやすいもので警戒を要するものであるといひますから無理もないと思ひますが、リズムカナルな遊戯と稱してゐるものゝ中にさへ途方もない不自然なリズムを持つたものがあるやうに考へられます。一寸やつてみて調子のよいものをリズムミカルだといふやうな幼稚な考へ方はないにしても、それに類した考へを全然持たないと

いひ切る事が出来ない程リズムといふ事を餘りに單純な意味に考へてゐるやうにおもはれます。しかしそれではリズムといふものが（人間の否宇宙の重要素である）餘りに無視されてしまつた事になつてしまひます。そしてこれを無視しては人間の教育は完全に徹底するわけにゆかない事にさへなるのでひとり幼児の遊戯に大事な事許りではないのであります。

以上誠に雜然としてゐますが要は、幼児教育は決して人間教育の中の極狭少な範圍ではなくてむしろ重大な部分をしめてゐるといふ事。その幼児教育は遊びの整理といふ事をもつて代表せらるべきではあるまいかといふ事。遊びの整理は心身兩面から考へられるべきものである事。その身體的方面の整理に身體そのものに關するもの、身體からたましいまでねらふものとの兩面が存在する事。身體的方面の整理に選ばれるべき材料は子供

の日常生活、自然界から採られるべき筈のものである事（これは即ち子供の創造、想像の力を十分に發表させこれを訓練する機會を與へる事になると思ひます。）動作は反リズム的のものをさけなければならぬ事。等でありまして、幼兒教育に經驗も知源もない者の或はいひさうな事のやうでもあります。しかしリズム的ならぬリズム運動をリズム運動として與へたり、大人の作つた僞子供の技巧の殻の中に子供を閉ぢこめて置いたりしては、自然の中を最も自然に生きてゆかうとする彼等の將來が案じられてなりません。

洲の先に鶴下り立ちて春の色

芭蕉

暖の椿見ながら午餉かな

爲王